

則松小

心豊かで 自ら学び たくましく生きる子どもの育成

目指す子ども像

平成26年10月27日

- ◎自ら学び、自ら考える子ども【かしこく】
- ◎心豊かで、協調性のある子ども【やさしく】
- ◎心身共に健康で、強い意志と実行力のある子ども【たくましく】

【北九州市子どもを育てる10か条】

- ①朝は明るく笑顔でおはよう
- ②家族にもありがとうとごめんなさい
- ③子育ては誉める・叱る・見守る・抱きしめる
- ④聞く時は 子どもの目を見て 心を聞いて
- ⑤食事が楽しみな家庭にしよう
- ⑥大切にしたい 物より体験
- ⑦まず親が きちんと実行 社会のルール
- ⑧声かけて 地域の宝 子どもたち
- ⑨教えよう 平和といのちと助け合い
- ⑩子どもと夢を語り合おう

則松小学校小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎませ

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果 ・本校の結果

国語A	全国平均正答率を上回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均をわずかだが上回ることができた。また、昨年度より上昇していた。読む能力や書く能力などの力が伸びていた。・言語知識理解は基礎ができていた。
	よくできた問題	文を読み、適切に表現の仕方を捉えたり、人物の相互関係を捉えたりする問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	ことわざや漢字の書き取りなど言語に関する知識を必要とする設問の正答率が低かった。
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っており、昨年度と比較しても大きな伸びがみられた。・国語への関心・意欲・態度の観点が高かった。・問題形式が記述式の設問に的確に回答することができていた。
	よくできた問題	文の内容を関係付けながら、疑問を書いたりまとめて書いたりするなど読む力を試す設問の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	異なる詩を読み比べ表現の工夫を捉えたり、詩の解釈として適切なものを選択する問題の正答率が低かった。
算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回っており、昨年度との比較でも大きな伸びが見られた。また、回答率が高かった。数量や図形に関する基礎的・基本的能力に優れていた。・数量や図形についての技能を試す設問の正答率が高かった。
	よくできた問題	一つの式にひき算とかけ算の混ざった計算や分母が異なる分数の計算などの正答率が高かった。
	努力が必要な問題	立体図形の見取図の辺や面のつながりや位置関係について問う問題の正答率が、他の設問と比較して若干正答率が低かった。
算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回るとともに、昨年度との比較でも大きな伸びがみられた。また、回答率が非常に高かった。・数学的な考え方の能力が必要とされる設問の正答率が高いとともに、問題形式が記述式の設問に的確に答えることができた。
	よくできた問題	既習の計算のきまりを活用して、数値が異なる場合でも工夫して計算する方法を記述する問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる児童の正答率が、他の設問と比較したときに若干低かった。

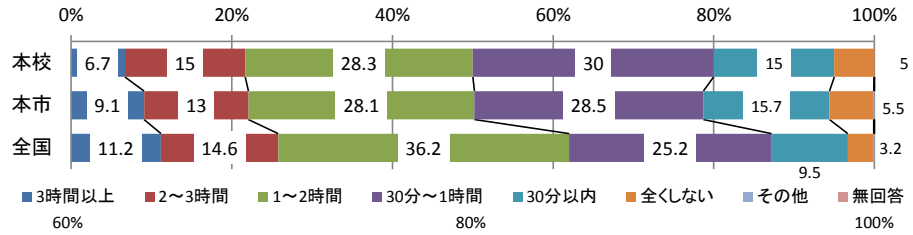
・国語の知識・理解に関する能力は全国平均を上回っているが、そのことが自信や達成感に繋がっていないために学習に対する興味・関心があり高くはないという結果が見られる。学習内容では、他の人に説明したり、自分の考えを文章に書いたりすることに抵抗感がある児童が多い。一方、解答を文章で書く問題について見ると、正答率も高く、無回答率も非常に低かった。今後は、思考の足跡が読み取れるノート指導などを活用した表現活動の工夫や考えたことを言葉で説明できる言語活動の指導の工夫を日常の授業などで取り入れる必要がある。

・算数に対する興味・関心が高く、日常の授業でも意欲的に活動を行っていることが、学習状況調査の自信や満足度の高さに表れている。言葉や数、式を使ってわけや求め方などを書く問題の正答率が高かった。さらに、基礎的基本的な学習の一層の習得、定着に力を入れ底上げを図り、学力格差解消に努める必要がある。

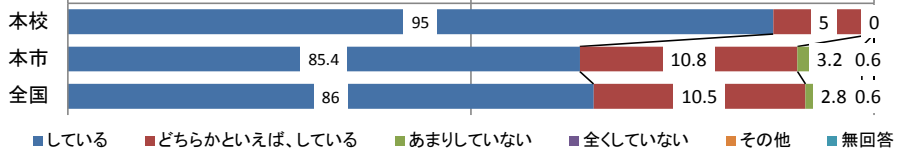
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

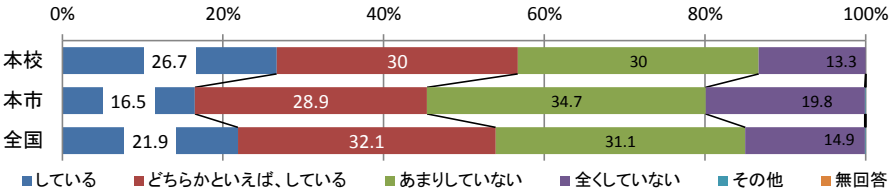
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



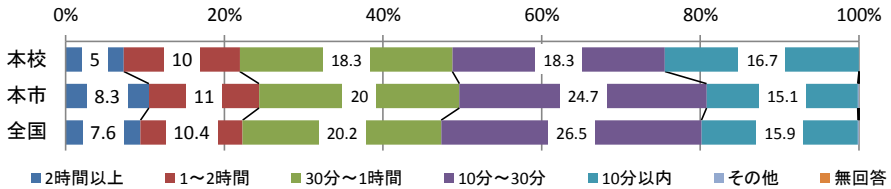
22
家で、学校の宿題をしていますか



24
家で、学校の授業の復習をしていますか



17
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)

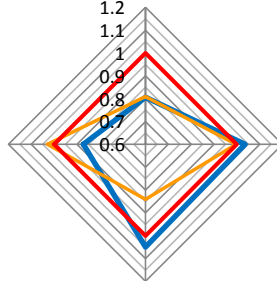


② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)
家で、学校の宿題をしていますか
家で、学校の授業の復習をしていますか
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日...

— 本校
— 本市
— 全国

※ 1時間以上



※「している」どちらかといえばしている。」

※「している」どちらかといえばしている。」

※「している」どちらかといえばしている。」

③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・家で普段一時間以上学習している児童は半数だった。また、学校から出される宿題などの課題に対しては、すべての児童が、きちんとしていると回答している。今後、毎日の家庭学習の時間の確保と習慣化に向け、発達段階や学習内容の到達度をもとに、宿題の量や内容を勘案した課題の出し方を工夫する必要がある。
- ・テレビなどの視聴やゲームの時間が全国平均よりも長かった。そのような時間を読書や学習時間の確保に活用させるため、自分で計画を立て学習する習慣を身に付ける指導が必要である。

④ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・「決まりを守らなければいけない」と考える児童は9割で規範意識はしっかり持っている。また、「いじめに関しても、どんな理由があってもいけないこと」と考える児童も多い。それが相手の気持ちや思いを大切にしたいという考えにつながっている。
- ・将来の夢や目標を持っている児童が全国平均より少ない。夢を実現させるための具体的な目標をもたせるために、キャリア教育等の充実が必要である。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝の学習(週2回の曜日を決めての算数タイム)を全校一斉に実施する。
 - ・授業の開始直後の基礎・基本的事項の定着のための小テストを実施する。
- ◎確かな学力の向上を図る指導の充実
 - ・少人数学習の充実を図り、児童の基礎学力の向上を図る。
 - ・学習規律のスタンダード化を図り、学習への集中力向上を目指す。
- 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・アシストシートやWEB問題を活用して基礎・基本の定着を図る。
 - ・基礎基本の定着を高めるプリントを冊子にして、冬休みや春休みの課題とする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎家庭学習のスタンダード化
 - ・家庭学習で身に付けさせたい家庭学習習慣を示した「則松小家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭での学習時間や学習内容、学習の順番などを共通理解する。
 - ・学期に一回、家庭学習定着強化期間を設け、家庭学習(宿題、自主学習)の習慣が定着する取組を実施する。
 - ・家庭学習チャレンジハンドブックを活用して、読書習慣、学習習慣の定着を図る取組を行う。
- ◎家庭と連携・協力しての定着に向けての取組
 - ・PTA総会や理事会等での家庭学習の重要性を発信し、家庭との協力体制を整える。
- 全国学力・学習状況調査の課題と取組等の保護者への周知・保護者との懇談会等で結果の説明を行うとともに、課題も提示し学力向上のための協力体制を図る。